

記入例

平成 **29**年 4月 1日

社会福祉法人川崎市幸区社会福祉協議会
平成 **29**年度グループ・団体活動助成申請書

グループ・団体名 ここにこ幸ボランティアの会

代表者氏名 皆 優 笑 ㊟

代表者住所（郵送先） 幸区戸手本町1-11-5

連絡先（Tel） 556 - 5500 (Fax) 556 - 5577

助成結果通知等の送り先になります。代表者と異なる場合は宛先も御記入ください

【代表者外連絡担当者：川崎 幸 連絡先/〇〇〇-〇〇〇

申請する支出科目額を対象額内で御記入ください

- ・立ち上げ **70%**以内
- ・会員対象事業 **50%**以内
- ・会員外対象事業 **70%**以内
- ・福祉教育の推進 **70%**以内
- ・その他 審査にて協議

1 申請金額

金 15,000 円

2 分類（該当の印）

ボランティアグループ / 当事者活動団体 / その他

3 助成金を申請する活動内容

| 該当に ○ | 活動内容 | 具体的内容 |
|-------------------------------------|-----------------|--|
| <input type="checkbox"/> | 団体等の立ち上げに関わる経費 | 学校で行う福祉教育授業へ講師として、協力する際の配布資料・勉強会ほか関係経費（通年） |
| <input type="checkbox"/> | 例会 | |
| <input type="checkbox"/> | コンなどの事務・事業経費 | |
| <input type="checkbox"/> | 対象に実施する講座・行事経費 | |
| <input type="checkbox"/> | 普及・推進に協力するための経費 | |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 福祉 | |
| <input type="checkbox"/> | その他 | |

同額にしてください

助成申請する該当事業の収支について御記入ください。

4 収支予算内

注※ グループ

と活動についてのみの収支を記載

| 入 | | 出 | |
|-----------|-----------------|--------------|----------|
| 科 | 金額 | 科目 | 金額 |
| グループ・団体 | 10,000 円 | 消耗品費（備品購入） | 13,000 円 |
| 区社協助成申請額 | <u>15,000 円</u> | 印刷・製本費 | 3,000 円 |
| その他助成金（ ） | 0 円 | 旅費（400円×10人） | 4,000 円 |
| 学校より（交通費） | 5,000 円 | 講師謝礼（勉強会） | 10,000 円 |
| | 円 | | |
| 前年度からの繰越金 | 5,000 円 | 次年度繰越金 | 5,000 円 |
| 合計 | 35,000 円 | 合計 | 35,000 円 |

収支は同額となります

※概要でかまいません。書ききれない場合は別途予算書を添付してください。

5 グループ・団体の概要

| | | | |
|---------|---|--------|-----------------|
| 発足年月日 | 昭和・平成 | 11年 5月 | (活動年数 14年 10カ月) |
| 会員数 | 25名 (ボランティア 25名・当事者 名・その他 名) ※幸区在住会員: 15名 ・ その他 10名 | | |
| 会費 | 500円 (参加毎・月額・年額) | | |
| 活動拠点 | 福祉パルさいわい | | |
| 活動日 | 毎月第1水曜日 ほか、相談の上で依頼日に活動 | | |
| 活動対象(者) | 高齢者・子育て家庭・障がい者等 | | |
| 会の目的 | 出来るときに出来ることを！を目的とし、地域に根差したボランティア活動を行う。 | | |
| 活動内容 | 毎月第1水曜日定例会。高齢者の付き添い、保育ボランティア、障害児の送迎など。 また、小学校や企業の福祉教育授業で、ゲストティチャーとして講師や車椅子体験などの講師を行うことで会員も学び、たくさんの福祉の芽がでるよう積極的に活動している。 | | |

グループ団体が、活動や会議等で使用している場所を記入

今年度の活動計画も含めて記入

6 添付書類 (必須)

定款または会則 ・ 事業計画 ・ 年間予算書 ・ 名簿

地域へ、または将来的な普及効果など、展望を記入してください。

7 申請する事業が周囲 (社会) にもたらす効果として、どのようなことが考えられますか

小学校や企業の福祉教育授業において、ゲストティチャーとして講師や車椅子体験などの講師を積極的に行うことで、会の活動の広報のみでなく、たくさんの福祉の芽がでるよう種をまいていきたい。福祉の一旦を支えるグループとして、次の時代を担う子どもたちへまた、新たな世代に自分たちの経験を伝えていくことで、波及できるものがあると考えます。

学校における福祉学習・講座などの際の講師協力は **可能** ・ 不可能

※助成金決定時の交付は窓口交付となります。この書類は必ず写しを取ってしておいてください。保管しておいてください。